

改訂版「お茶大インデックス」(雇用環境整備指標)を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2022 年度 結果

改訂版「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。

調査実施日	2023 年 3 月 9 日 (木) ～2023 年 3 月 24 日 (金)
調査方法	Excel で回答可能な改訂版「お茶大インデックス」をメールにて送付し、Plone を用いて評価結果と活用方法についてのアンケート調査を実施。
配布機関	女性研究者支援モデル育成事業・女性研究者養成システム改革加速事業・女性研究者研究活動支援事業採択機関、およびダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ女性研究者研究活動支援事業採択機関のうち連絡が可能であった 102 機関
回収数	27 機関 (回収率 26.5%)

改訂版「お茶大インデックス」評価結果 27 機関の回答割合と特徴

27 機関の改訂版「お茶大インデックス」の評価結果について、50 項目それぞれに 3 つの選択肢の回答割合を算出した。各項目の回答割合を用いて図 1 を作成した。

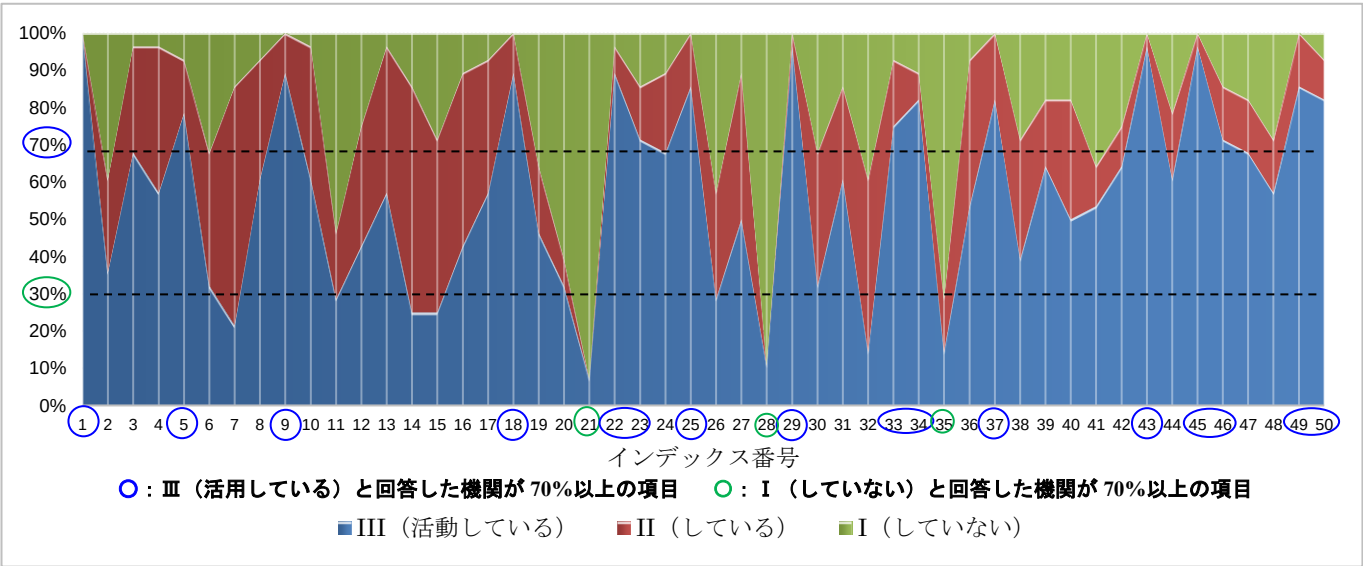


図 1. お茶大インデックス評価結果 (全 27 機関、回答割合)

27 機関における活用度の高い取組 (『Ⅲ.活用している』と回答した機関が 70%以上の項目)、低い取組 (『Ⅰ.していない』と回答した機関が 70%以上の項目) は以下の通り。(カッコはインデックス番号を示す)

活用度の高い取組 (『Ⅲ.活用している』の回答割合が 70%以上)	
(1) 女性研究者を支援する組織 (本部、室、センター、部門など) の設置	(33) 研究者支援の取組状況や成果を発信するためのホームページの設置
(5) 女性を積極的に採用する制度や仕組みの導入	(34) 子育てや介護に関わる手続きや利用可能な支援を紹介するための冊子 (WEB での紹介含む) 作成
(9) 女性研究者を支援するための予算の配分	(37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域とのネットワーク連携、コンソーシアム設置
(18) 保育施設 (一時保育含む) やベビーシッター手配のための支援 (経費支援・利用補助券配布含む)	(43) 機関内向け研究者支援に関わる情報発信 (メール・広報誌・掲示・WEB)
(22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入 (時短勤務、在宅勤務など)	(45) ハラスメントを防止するための取組
(23) 育児期における職務軽減制度 (非常勤講師配置制度、代替要員配置制度含む) の導入	(46) 男性向け子育て支援に関する意識啓発
(25) 次世代育成支援対策行動計画や女性活躍推進対策行動計画、一般事業主行動計画の機関内外への周知	(49) ダイバーシティ&インクルージョンを理解するための意識啓発
(29) 研究者を支援するための研究補助者 (支援員) の配置	(50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発

実施度の低い取組（『I.していない』の回答割合が70%以上）

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| (21) 子育てを支援するための機関内宿泊施設の整備（他機関との連携も可） | (35) 女性研究者を支援（研究補助、事務補助、子育て補助など）する |
| (28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制の導入 | ための人材（人財）バンク構築 |

活用度の高い取組（『III.活用している』の回答割合が70%以上）を示した項目は、「1. 全学的な支援体制（組織・勤務体制（心おきなく帰宅できる体制））」におけるインデックス番号（1）、（5）、（9）の3項目、「2. 女性研究者支援（子育て支援・研究教育支援）」におけるインデックス番号（18）、（22）、（23）、（25）、（29）の5項目、「3. 情報支援（情報支援とネットワーク構築）」におけるインデックス番号（33）、（34）、（37）の3項目、および「4. 意識啓発（次世代育成の取組・意識啓発の取組）」におけるインデックス番号（43）、（45）、（46）、（49）、（50）の5項目があり、計16項目となった。

実施度の低い取組（『I.していない』の回答割合が70%以上）を示した項目は、「2. 女性研究者支援（子育て支援・研究教育支援）」におけるインデックス番号（21）、（28）の2項目および「3. 情報支援（情報支援とネットワーク構築）」におけるインデックス番号（35）の1項目があり、計3項目となった。

この調査結果の特徴は、教育研究機関における女性研究者や育児支援に関する取組が、いくつかの分野で高い活用度を示している一方で、物理的な支援体制の構築や学生向けの支援体制には課題が残っている点にある。活用度の高い取組では、主に女性研究者や育児支援に関連する施策が広く機関で導入・活用されていることが確認された。これらの取組は、多様なライフステージに応じた柔軟な支援制度が整備されていることを示している。その中、女性研究者を支援する組織（項目1）、積極的な採用制度（項目5）、支援予算の配分（項目9）が広く実施され、組織的に女性のキャリアを支援する体制が整っている。これにより、女性研究者の採用やキャリア発展を促進する文化が醸成されつつある。

また、育児支援に関しては、保育施設やベビーシッター支援（項目18）、柔軟な勤務体制の導入（項目22）、職務軽減制度の導入（項目23）といった多様な支援策が多く機関で導入され、育児期の研究者にとって働きやすい環境が整備されている。これにより、育児と仕事の両立がしやすい環境が作られていることがわかった。さらに、機関内外への支援計画の周知（項目25）、研究者支援に関するホームページの設置（項目33）、冊子の作成（項目34）など、情報発信が積極的に行われています。また、ハラスメント防止（項目45）、ダイバーシティ&インクルージョンの意識啓発（項目49）、ワーク・ライフ・バランスの意識啓発（項目50）といった意識改革に関する取組が進んでいる点も特徴的である。これにより、支援策の認知が広がり、研究環境の改善につながっている。また、他機関や地域とのネットワーク連携（項目37）は、研究支援を広域で強化するための重要な要素であり、特に女性研究者のネットワークを活かした相互支援が進んでいることがわかった。

一方で、実施度の低い取組に挙げられた項目は、物理的な施設整備や学生向けの支援策に関するものが中心である。子育てを支援するための宿泊施設の整備（項目21）は、他機関との連携も可能としながらも、物理的な施設の整備にコストやスペースの問題があるため、導入が進んでいないと考えられる。このようなインフラ整備は、長期的な課題となっているようである。また、学生や院生に対する育児奨学金制度の導入（項目28）は、実施されている機関が少なく、学生向けの支援体制が不十分であることが明らかである。これにより、学生の育児と学業の両立を支援する仕組みがまだ整っていないことが課題となっている。さらに、女性研究者を支援するための人材バンクの構築（項目35）は、人的リソースの確保が難しく、実施が進んでいない点の特徴である。人材を効果的に活用するための仕組み作りが、今後の課題となっている。

この調査結果は、女性研究者や育児支援に関しては、多くの機関が既に積極的な取組を実施していることを示している。組織的支援、柔軟な働き方の導入、情報発信や意識啓発といった分野での進展は顕著であり、研究環境の改善が進んでいる。一方、物理的な施設整備や学生向けの支援、人材確保に関する取組はまだ十分に進んでおらず、今後の改善が必要である。

改訂版「お茶大インデックス」2022 年度 評価結果 総合得点一覧

改訂版「お茶大インデックス」2022 年度の評価結果（表 1）を総合得点の降順に示す。総合得点の平均点は 68.5 点（前回調査時より 0.4 点増）、最高点は 85 点（3 点減）、最低点は 40 点（17 点増）であった。

表 1. 改訂版「お茶大インデックス」 評価結果 （総合得点降順）

ID	「お茶大インデックス」 カテゴリー別得点							
	総合得点	1.全学的な支援体制		2.女性研究者支援		3.情報支援	4.意識啓発	
		組 織	勤務体制	子育て支援	研究教育支援	情報支援とネットワーク構築	次世代育成の取組	意識啓発の取組
026	85	17	11	7	16	10	8	16
035	85	17	11	7	21	9	4	16
076	84	16	9	10	16	9	8	16
070	82	12	9	10	18	10	8	15
086	81	18	2	10	18	9	8	16
045	79	15	6	8	16	12	6	16
047	77	18	8	6	13	9	8	15
018	75	11	6	8	18	8	8	16
074	75	13	8	9	17	7	7	14
お茶の水女子大学	74	15	9	7	15	10	8	10
067	71	14	8	10	14	7	4	14
068	71	11	8	8	14	9	8	13
030	70	9	10	6	17	8	8	12
061	68	12	10	6	13	5	6	16
077	68	13	5	4	15	8	8	15
083	68	17	7	5	8	8	8	15
082	67	13	6	8	13	7	8	12
079	66	15	6	7	16	8	4	10
003	65	14	9	3	16	8	2	13
069	64	14	5	4	14	11	1	15
059	63	13	7	4	11	6	8	14
019	62	13	6	6	17	10	3	7
041	61	11	7	8	14	6	0	15
022	60	7	6	10	14	9	0	14
063	58	13	6	3	10	9	5	12
058	50	9	5	4	10	8	4	10
089	49	13	4	5	11	6	0	10
053	40	11	5	4	11	4	0	5

自己評価結果は「機関名を表示しない」ことを条件に本学に提出いただいているため、機関名の表示は本学のみとし、その他の機関は全て ID 表示としている。本調査を実施するにあたり、27 機関の教育研究機関の皆様にご協力を賜った。心より感謝の意を表する。